

平成14年度「家計における教育費負担の実態調査」

アンケート結果の概要

< お問合わせ先 > 国民生活金融公庫総合研究所 情報開発課
電話 03-3270-1361 (内線519)
担当 須田
(夜間直通 03-3270-1384)

勤務者世帯の年収の減少続き、依然として負担が重い教育費

調査時期・対象 平成14年6月、「国の教育ローン」を平成14年2月に利用した世帯
有効回答数 3,939件(有効回答率32.8%)、うち勤務者世帯3,036件

～主な調査結果(勤務者世帯)～

1 高校入学から大学卒業までにかかる費用は1人当たり約1,000万円(本文3、4、5ページ)

入学者1人当たりの入学費用は、大学で101.8万円、高校で48.7万円となった。在学中の子供1人当たりにかかる1年間の費用は、大学で145.9万円、高校で86.3万円となった。高校入学から大学卒業までにかかる費用は、1人当たり993.0万円(13年度調査941.5万円)となっている。

2 世帯の年収は4年連続で減少し、教育費は年収の33.1%を占める(本文6、7ページ)

世帯全体の年収(13年実績)は、平均で718.9万円となり、4年連続で前年を下回った。世帯の年収に対する在学費用の割合は、33.1%に達している。

3 仕送り額は年間119万円に上り、自宅外通学の費用負担は重い(本文9、10ページ)

自宅外通学者がいる世帯は勤務者世帯の39.0%を占める。自宅外通学者1人当たりの仕送り額は、年間119.4万円に上る。

4 節約と預貯金等の取り崩しで教育費を捻出(本文11ページ)

半数以上の世帯が、教育費以外の支出の節約や預貯金等の取り崩しによって教育費を捻出している。
節約している支出のなかでは、「保護者のこづかい」をあげる世帯の割合が高まっている。

家計における教育費負担の実態調査結果について

調査要領、回答世帯の概要

調査結果 - 勤務者世帯について -

< 主な調査結果 >

1 教育費の支出状況

- (1) 入学費用
- (2) 在学費用
- (3) 高校入学から大学卒業までにかかる費用
- (4) 世帯の年収、住宅ローンの負担
- (5) 世帯の年収別にみた在学費用の負担
- (6) 就学状況別にみた在学費用の負担

2 自宅外通学者にかかる費用

- (1) 自宅外通学者1人当たりの年間の仕送り額
- (2) 自宅外通学を始めるための費用

3 教育費の捻出方法

用語の解説

調査要領、回答世帯の概要

1 調査要領

調査対象：「国の教育ローン」を平成14年2月に利用した世帯

実施時期：平成14年6月

発送件数：11,993件

回収数：3,939件（回収率32.8%）

「国の教育ローン」の概要

利用対象
世帯の年収が990万円（事業所得者は770万円）以内（注）で、下記の学校に入学・在学する子供のいる世帯。
・高校、高等専門学校
・短大、大学、大学院
・専修・各種学校、予備校など
・海外の学校（高校、短大、大学など）
・その他職業能力開発校などの教育施設
（注）平成14年4月から所得制限額は1,210万円から990万円（事業所得者は990万円から770万円）へ引き下げられた。

融資額

学生・生徒1人当たり200万円以内

用途

・入学費用（学校納付金、受験費用など）
・在学費用（授業料、アパートの家賃、通学費など）

2 回答世帯の概要

(1)主たる家計維持者の職業（単位：%、以下同じ）

勤務者	個人事業主	法人経営者	その他
77.8	13.2	6.7	2.3

(2)主たる家計維持者の年齢（勤務者世帯）

44歳以下	45～49歳	50～54歳	55歳以上	平均
14.8	38.4	37.2	9.6	49.1歳

(3)在学中の子供の数（勤務者世帯）

1人	2人	3人以上	平均
30.8	49.0	20.2	1.9人

(4)世帯の年収（平成13年）（勤務者世帯）

200万円未満	200万円以上 400万円未満	400万円以上 600万円未満	600万円以上 800万円未満	800万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上	平均
2.0	8.1	20.7	29.3	24.8	15.1	718.9万円

（注）今回の調査対象世帯が「国の教育ローン」を利用した時点の所得制限額は1,210万円である。

調査結果 - 勤務者世帯について -

< 主な調査結果 >

勤務者世帯の年収が4年連続で減少し、家計にとって教育費の負担は依然として重い。苦しい家計のなかで、預貯金を取り崩したり、衣類の購入費や旅行・レジャー費などを節約したりして何とか教育費を捻出しようという姿がうかがえる。

教育費の支出状況 - 大学への入学者1人当たりの入学費用は102万円 -

14年度における入学者1人当たりの入学費用は、大学で101.8万円、高校で48.7万円となった。一方、在学中の子供1人当たりにかかる1年間の費用（在学費用）は、大学で145.9万円、高校で86.3万円となった。

世帯の年収 - 4年連続で減少 -

世帯の年収（13年実績）は平均で718.9万円となった。13年度調査の722.2万円を3.3万円下回り（12年度調査746.2万円、11年度調査768.6万円、10年度調査840.0万円）、4年連続の減少となった。

在学費用の負担 - 在学費用は年収の33%に相当 -

世帯の年収に対する在学費用（すべての子供にかかる費用の合計）の割合は33.1%となり、13年度調査の33.5%を0.4ポイント下回った。年収階級別にみると、年収が高い世帯ほど在学費用は多くなる傾向にあるが、世帯の年収に対する割合は年収が低い世帯になるほど上昇し、200万円以上400万円未満の世帯では54.1%に達する。

自宅外通学者にかかる費用 - 仕送り額は年間119万円 -

自宅外通学者がいる世帯は、回答世帯の39.0%に上る。自宅外通学者が1人いる世帯の仕送り額は年間119.4万円（月額10.0万円）で、13年度調査の121.7万円を2.3万円下回った。また、自宅外通学を始めるための費用（アパートの敷金や家財道具の購入費など）は45.3万円となっており、13年度調査の47.8万円を2.5万円下回った。

教育費の捻出方法 - 7割が「教育費以外の支出を削っている」 -

教育費の捻出方法をみると、「教育費以外の支出を削っている」、「預貯金や保険などを取り崩している」と回答した世帯が、ともに半数を超える。削っている支出としては、「衣類の購入費」（58.7%）と回答した世帯が最も多く、以下「旅行・レジャー費」（58.4%）、「食費」（44.6%）、「保護者のこづかい」（40.7%）と続く。

1 教育費の支出状況（勤務者世帯、以下同じ）

（1）入学費用 - 大学は102万円、高校は49万円 -

入学者1人当たりにかかる入学費用は、大学が101.8万円、短大が84.4万円、専修・各種学校が81.9万円、高校が48.7万円となり、高校がわずかに減少した以外は前年度調査に比べ増加している（図-1）。
 私立高校にかかる入学費用は52.6万円で、国公立高校へ入学した場合にかかる費用のおよそ1.4倍になっている（図-2）。大学入学費用は、国公立と私立で大きな差はみられない。国公立大学へ入学した場合、入学しなかった学校への納付金がかさんでいるためである。

図-1 入学先別にみた入学費用（子供1人当たりの費用）

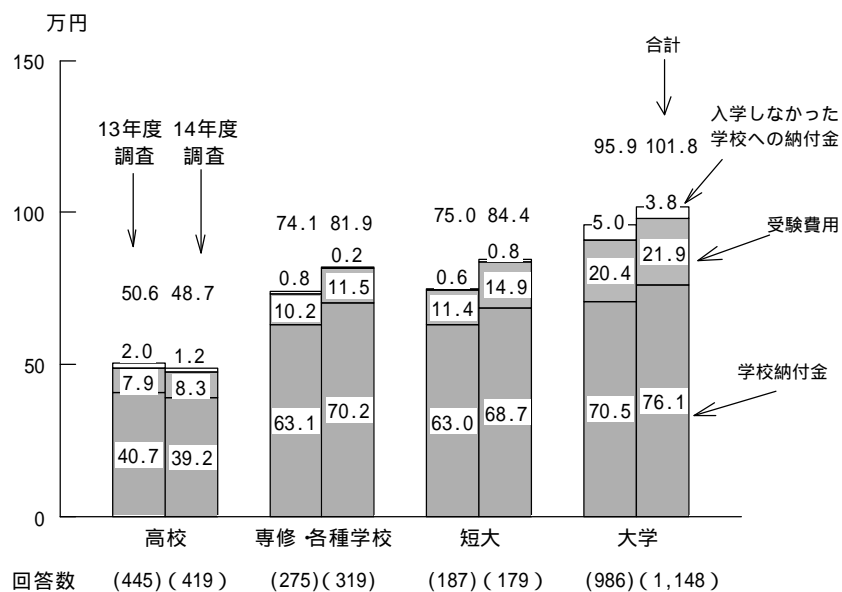
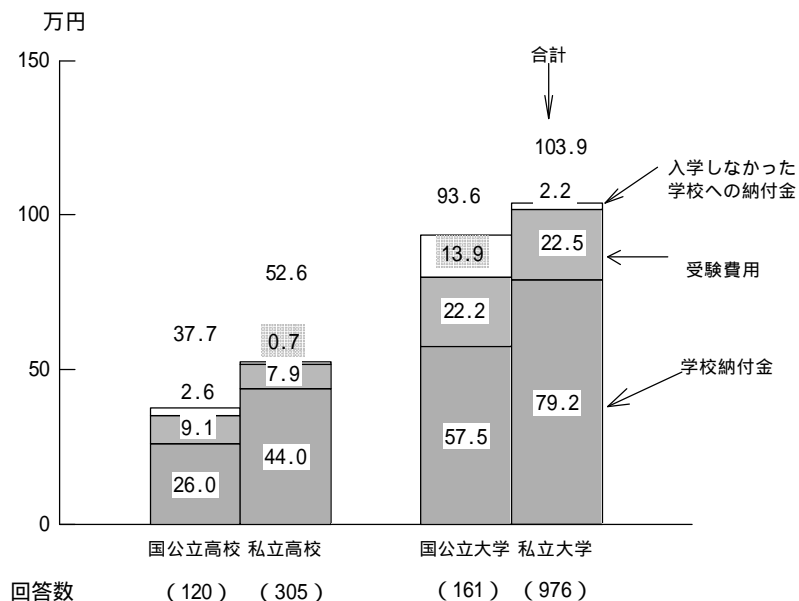


図-2 国公立・私立の別にみた入学費用（子供1人当たりの費用）



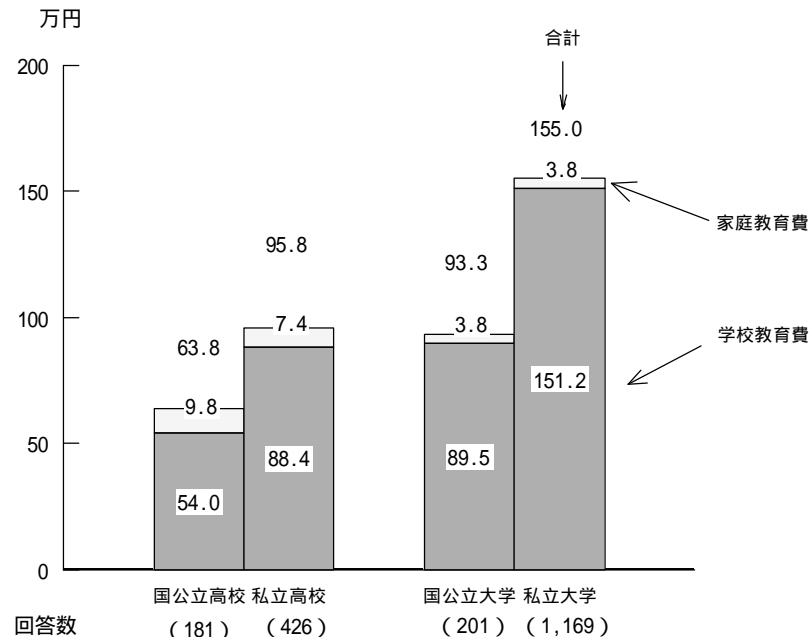
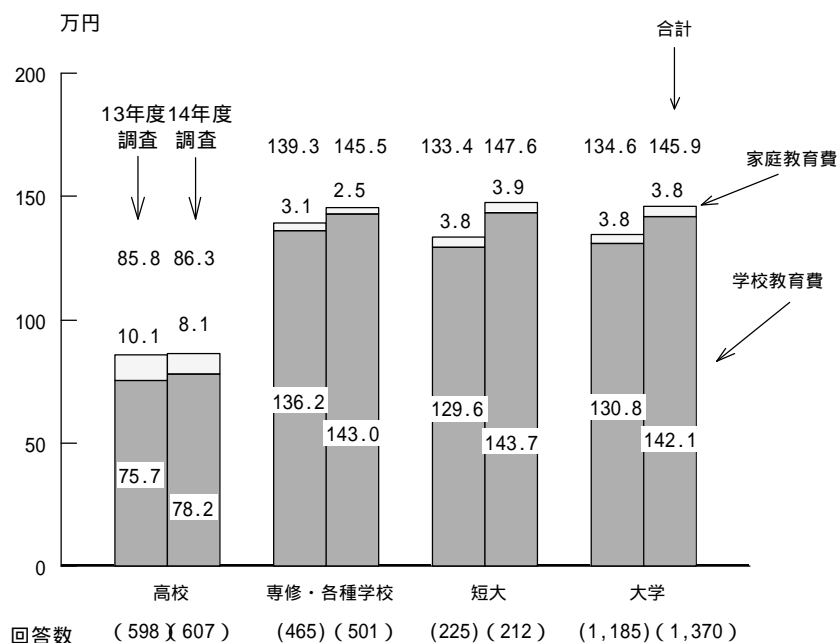
注1：入学費用
 ┌ 受験費用
 ┌ 学校納付金
 ┌ 入学しなかった学校への納付金

2：14年度調査の入学費用は、主として14年4月にかかる実績である。

(2) 在学費用 - 大学は年間146万円、高校は86万円 -

在学中の子供1人当たりにかかる1年間の在学費用は大学が145.9万円、短大が147.6万円、専修・各種学校が145.5万円、高校が86.3万円となっている(図-3)。いずれも前年度調査より増加している。
 私立大学に入学した場合、1年間の在学費用は国公立大学のおよそ1.7倍になっている。在学費用については私立大学と国公立大学の格差は大きい(図-4)。

図-3 在学先別にみた1年間の在学費用(子供1人当たりの費用) 図-4 国公立・私立の別にみた在学費用(子供1人当たりの費用)



注1: 在学費用
 学校教育費(授業料、通学費、教科書代など)
 家庭教育費(塾の月謝、おけいこごとの費用など)

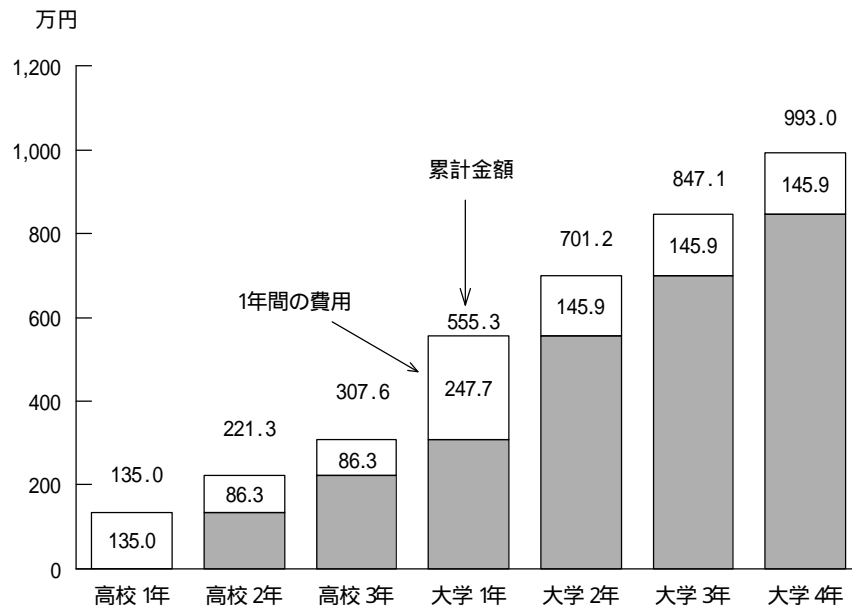
注: 在学費用は、14年度における見込額である。

2: 14年度調査の在学費用は、14年度における見込額である。

(3) 高校入学から大学卒業までにかかる費用 - 子供1人当たり993万円 -

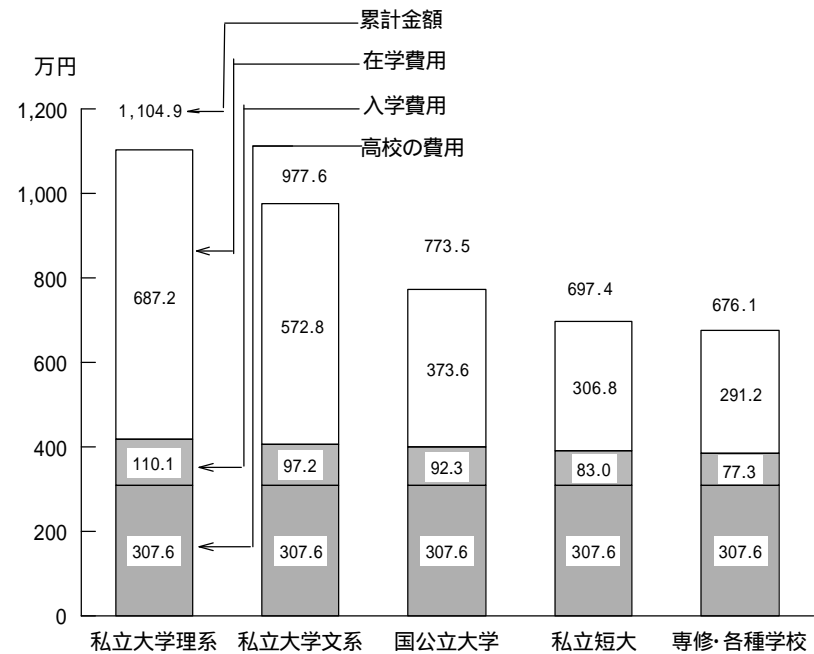
14年度調査の入学費用と在学費用を累計すると、子供1人当たりにかかる費用は高校3年間で307.6万円となる(図-5)。大学に入学した場合、入学費用と4年間の在学費用685.4万円が加わり、合計では993.0万円となる。高校卒業後の入学先別にみると、私立大学に入学した場合の累計費用は理系で1,104.9万円、文系で977.6万円となっている(図-6)。また、私立短大、専修・各種学校に入学した場合の費用は、国公立大学と大きく変わりはない。

図-5 大学卒業までにかかる費用
(子供1人当たりにかかる費用の平均額の累計)



注1: 内は、各学年における1年間の費用である。
注2: 高校1年、大学1年の費用には、入学費用が含まれる。

図-6 高校卒業後の入学先別にみた卒業までにかかる費用
(子供1人当たりにかかる費用の平均額の累計)

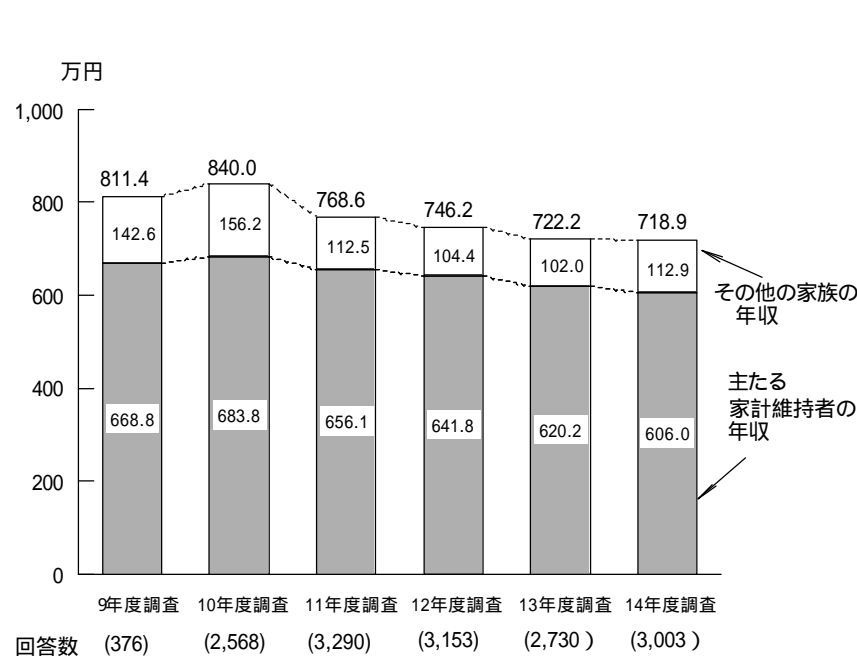


注1: 高校の費用は、国公立・私立を合わせた全体の平均である。
注2: 高校の費用には、入学費用も含まれる。

(4) 世帯の年収、住宅ローンの負担 - 世帯の年収は719万円、住宅ローンの返済額は年間119万円 -

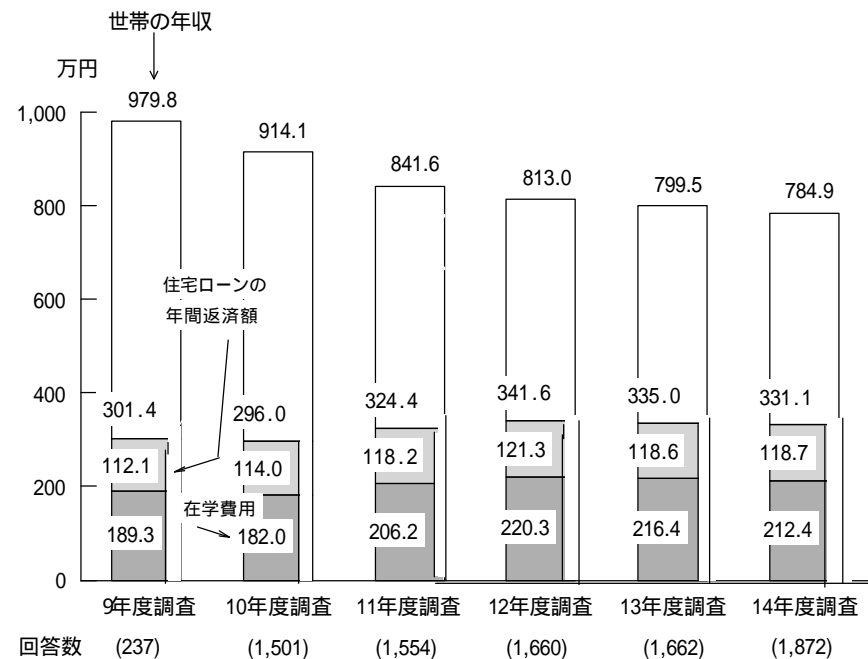
世帯全体の年収は平均718.9万円となり、11年度調査から4年連続で前年度を下回った(図-7)。内訳をみると、主たる家計維持者の年収が606.0万円、その他の家族の年収が112.9万円となっている。
住宅ローンのある世帯は勤務者世帯全体の63.6%を占め、1年間に平均118.7万円を返済している(図-8)。これに、すべての子供にかかる年間の在学費用212.4万円を加えると331.1万円となっている。

図-7 世帯の年収



注：年収は、当該調査年度の前年(1~12月)の実績である。

図-8 住宅ローンの年間返済額と在学費用の負担 (住宅ローンのある世帯)



注：在学費用は、小学生以上の子供全員にかかる年間在学費用を平均したものである。

(5) 世帯の年収別にみた在学費用の負担 - 世帯の年収に対する在学費用の割合は 3 3 % -

世帯の年収に対する在学費用（すべての子供にかかる費用の合計）の割合は、平均33.1%となり、13年度調査の33.5%を0.4ポイント下回った（図 - 9）。
 年収階級別にみると、年収が高い世帯ほど、在学費用は多くなる傾向にある（図 - 10）。
 世帯の年収に対する在学費用の割合をみると、年収が低い世帯ほど在学費用の負担は重くなる（図 - 10）。ちなみに200万円以上400万円未満の世帯では世帯の年収の54.1%に達している。

図 - 9 世帯の年収に対する在学費用の割合
 （すべての子供にかかる在学費用）

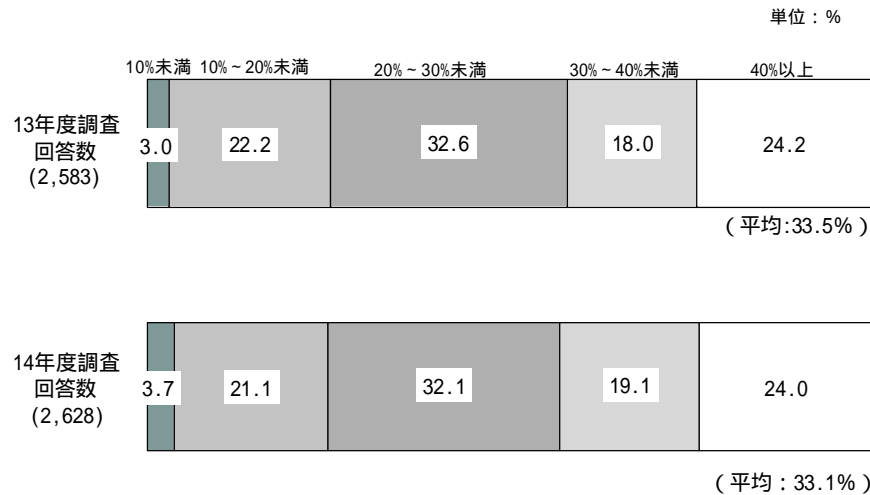
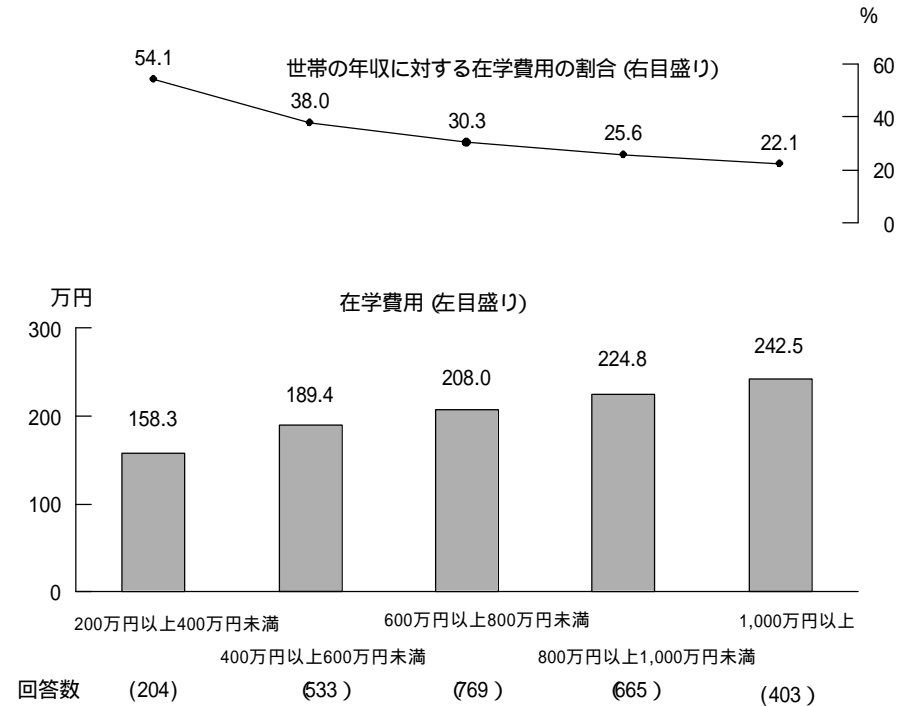


図 - 10 年収階級別にみた世帯の年収に対する在学費用の割合
 （すべての子供にかかる在学費用）



注：世帯の年収が200万円未満の世帯については、サンプル数（54）が少ないため省略した。

(6) 就学状況別にみた在学費用の負担 - 在学中の子供が2人いる標準的世帯の在学費用は年間222万円 -

子供の数は2人の世帯が最も多く、全体の52.8%となっている(図-11)。小学校以上に在学中の子供の数も、2人の世帯が49.0%と最も多く、平均1.9人となった。
 子供が2人で、2人とも在学している標準的な世帯をみると、年収は平均731.0万円、1年間の在学費用は平均222.3万円となっている(図-12)。

図-11 子供の数と在学中の子供の数
(世帯数でみた割合)

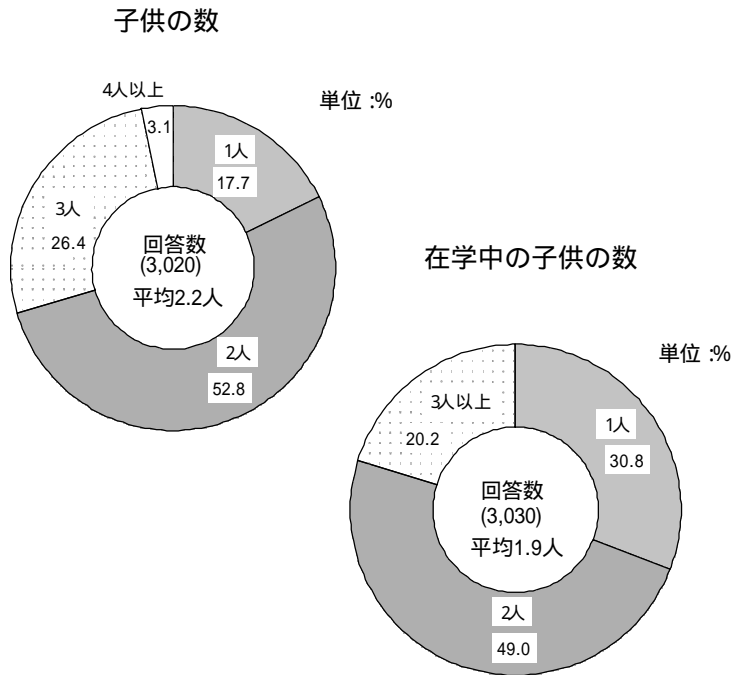
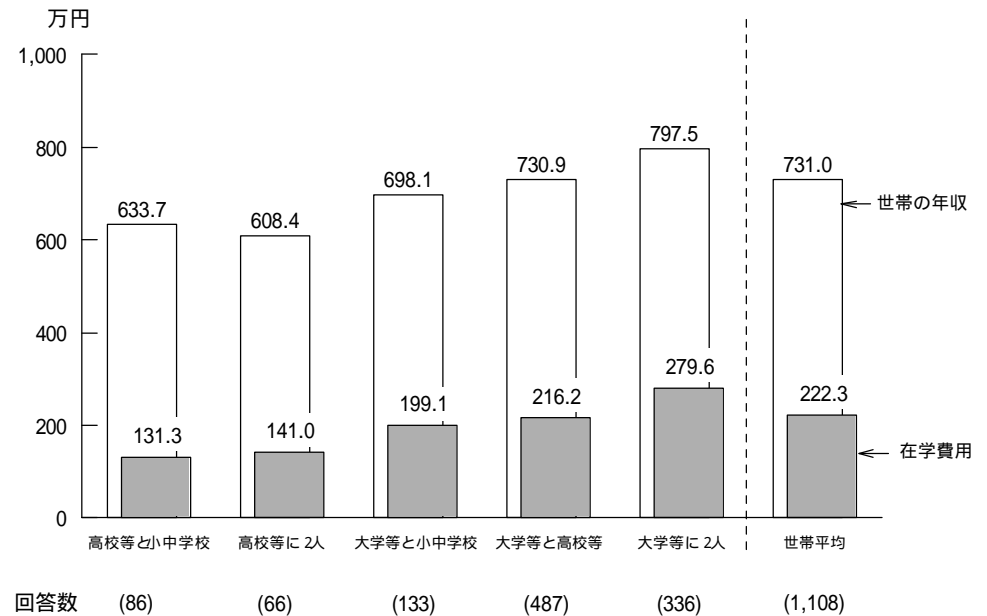


図-12 就学状況別にみた在学費用
(子供が2人で、2人とも在学中の世帯)



注：高校等とは高校および高等専門学校である。

大学等とは大学院、大学、短大、専修・各種学校および予備校である。

2 自宅外通学者にかかる費用

(1) 自宅外通学者1人当たりの年間の仕送り額 - 自宅外通学者が1人いる世帯の仕送り額は年間119万円 -

自宅外通学者のいる世帯は、全体の39.0%を占め、13年度調査の41.3%を2.3ポイント下回った(図-13)。
 自宅外通学者が1人いる世帯の仕送り額は年間119.4万円(月額10.0万円)で、13年度調査の121.7万円を2.3万円下回った(図-14)。

図-13 自宅外通学者数別にみた世帯数の割合

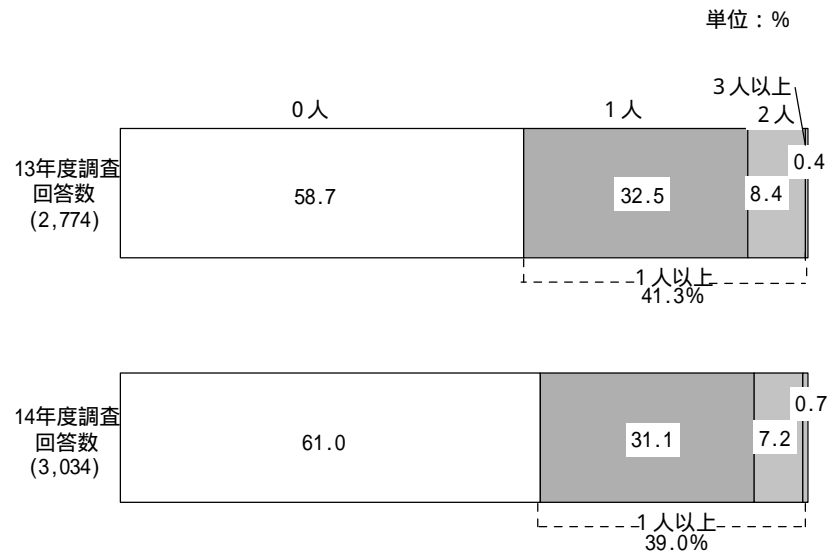
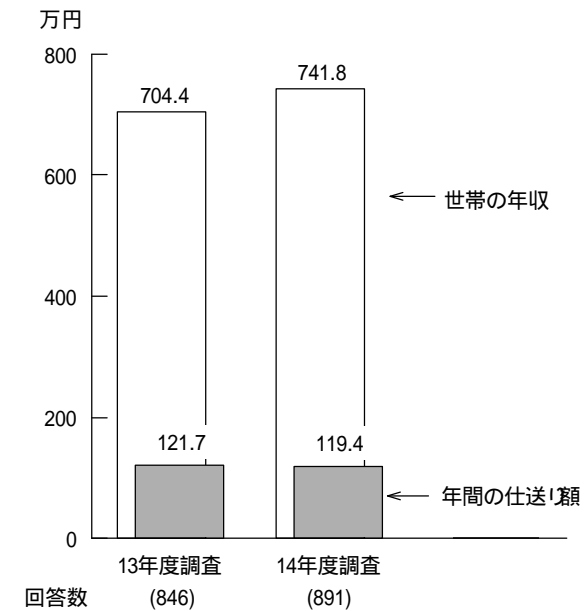


図-14 自宅外通学者が1人いる世帯の年間の仕送り額



(2) 自宅外通学を始めるための費用 - 入学者 1 人当たり 4 5 万円 -

自宅外通学を始めるための費用（アパートの敷金や家財道具の購入費など）は、入学者 1 人当たり平均45.3万円となっており、13年度調査の47.8万円を2.5万円下回った（図 - 15）。
 入学費用と自宅外通学を始めるための費用の合計は入学者 1 人当たり平均139.4万円となっており、13年度調査の137.3万円を2.1万円上回った（図 - 16）。

図 - 15 自宅外通学を始めるための費用
 (入学者 1 人当たりの費用)

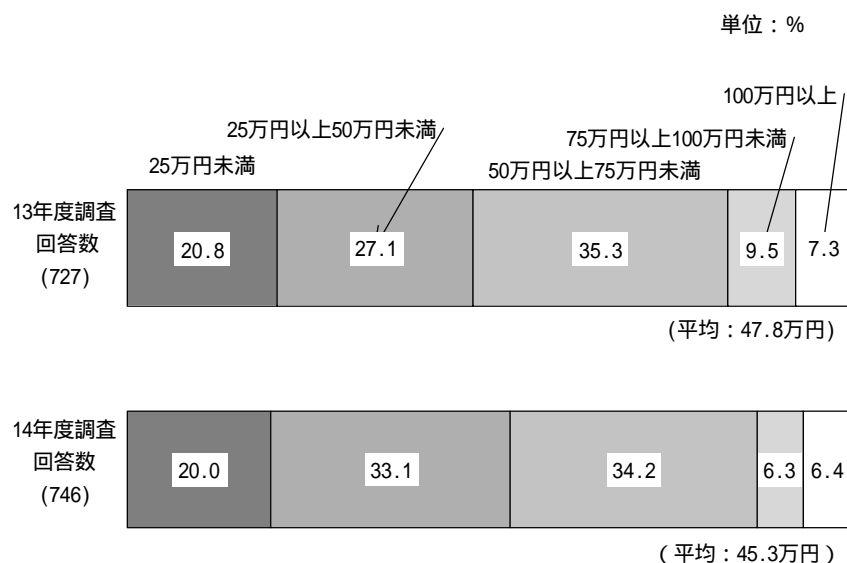
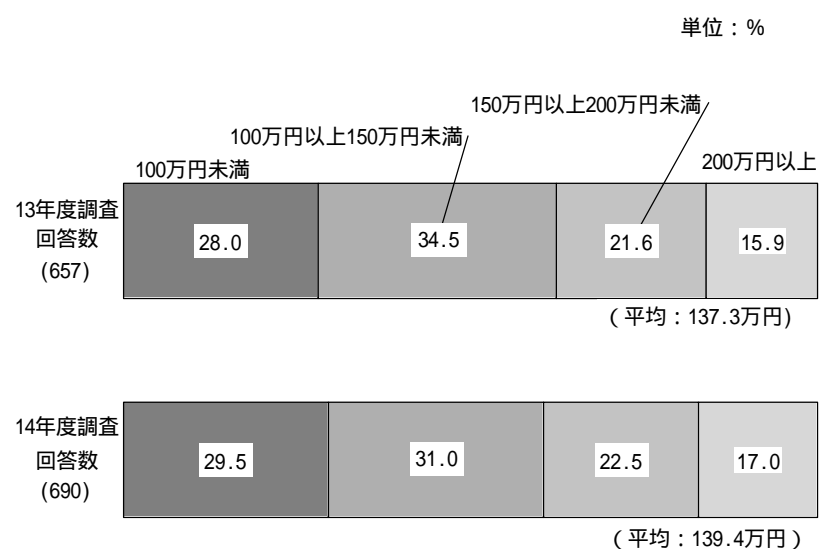


図 - 16 入学費用と自宅外通学を始めるための費用
 (入学者 1 人当たりの費用)



注：14年 4 月の入学時に自宅外通学を始めるためにかかった
 アパートの敷金、家財道具の購入費などの合計である。

3 教育費の捻出方法 - 節約と預貯金等の取り崩しで教育費を捻出 -

教育費の捻出方法については、「教育費以外の支出を削っている」、「預貯金や保険などを取り崩している」と回答した世帯が、ともに半数を超えている（図 - 17）。

節約している支出としては、「衣類の購入費」（58.7%）と回答した世帯が最も多く、以下「旅行・レジャー費」（58.4%）、「食費」（44.6%）、「保護者のこづかい」（40.7%）と続く（図 - 18）。とくに「保護者のこづかい」は13年度調査の31.1%を9.6ポイントも上回った。

図 - 17 教育費の捻出方法
（三つまでの複数回答）

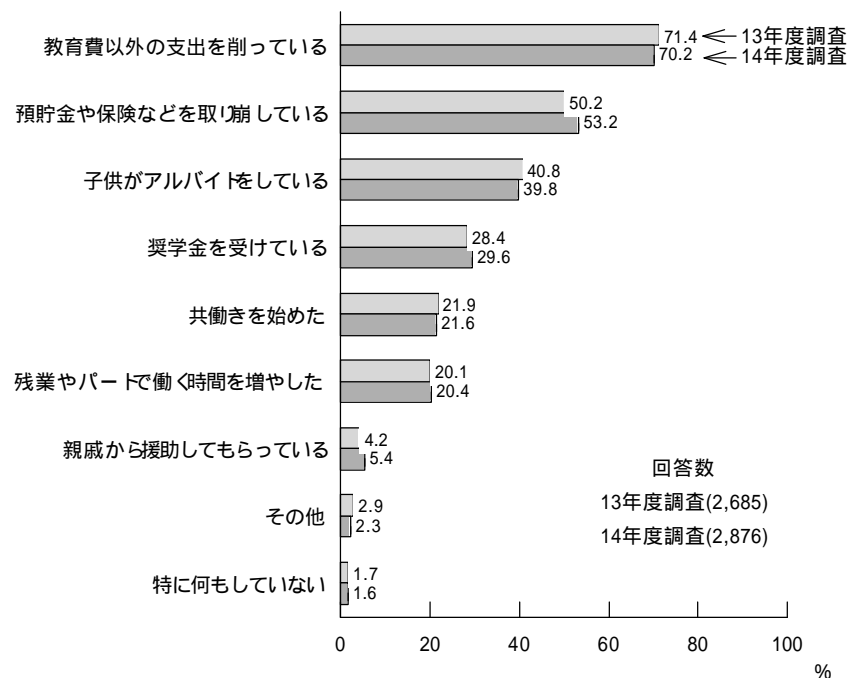
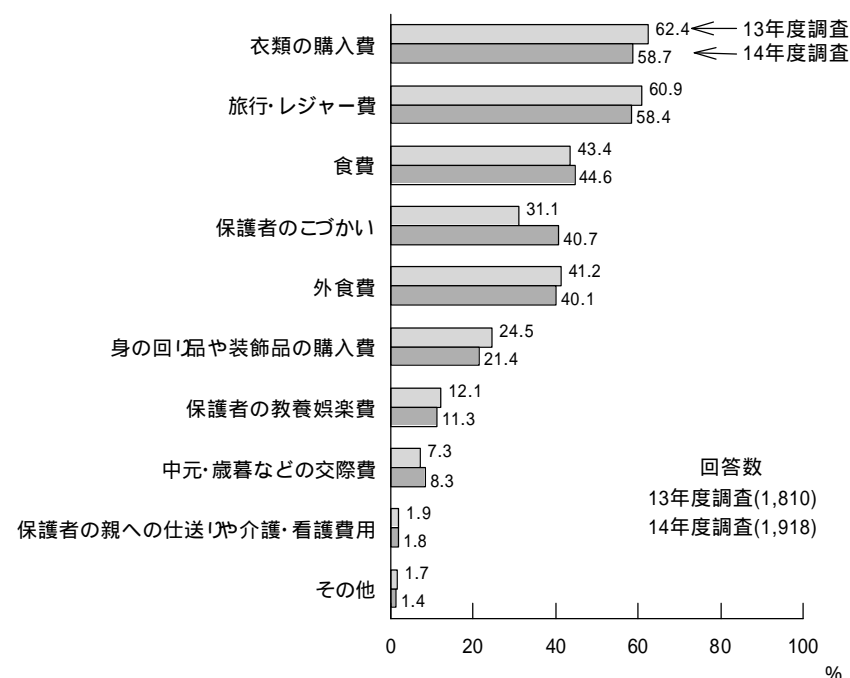


図 - 18 節約している支出
（三つまでの複数回答）

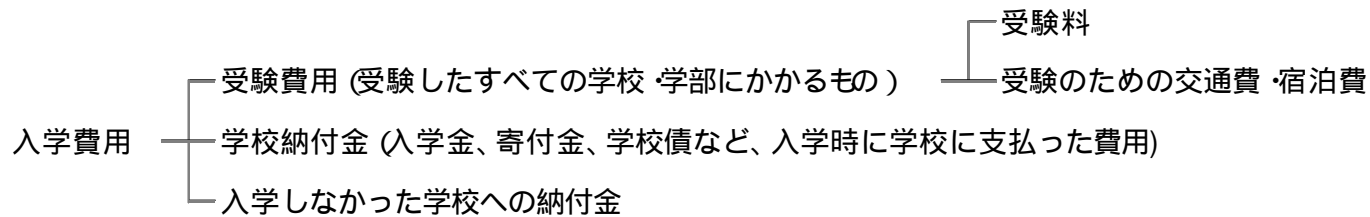


注：図 - 17で「教育費以外の支出を削っている」と回答したサンプルに対する設問。

用語の解説

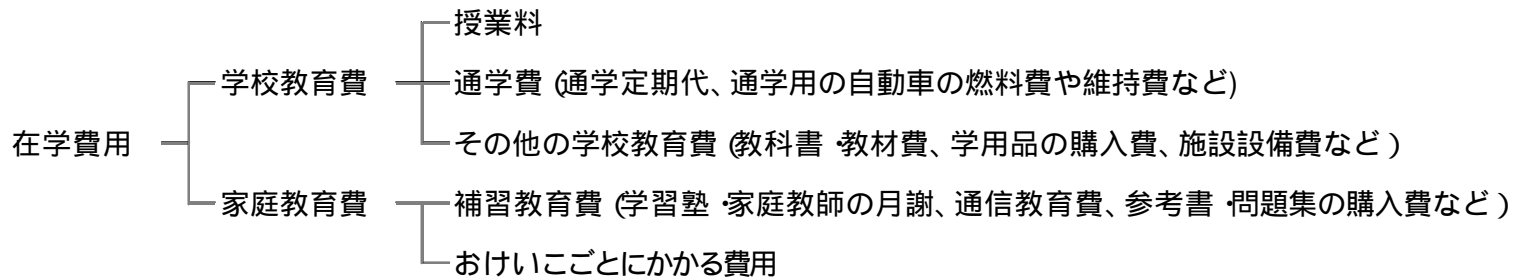
1 入学費用

平成14年 4月に高校以上の学校へ入学するためにかった費用



2 在学費用

平成14年 4月から平成15年 3月までの1年間に、小学校以上の学校に在学中の子供にかかる費用の見込み額



3 自宅外通学者にかかる費用

(1) 年間の仕送り額 (ただし、授業料分は除く)

(2) 自宅外通学を始めるための費用 (アパートの敷金・礼金、家財道具の購入費など)